

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	20	学校名	静岡県立浜北特別支援学校	校長名	八幡 正信
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	個性を生かし確かな成長を感じられる教育活動を進める。	「教育課程の押さえ」を踏まえ、学校全体の調和を図り、学部間／学年間の系統性を実現する教育課程が編成できたと感じる教員  100%	学年経営や授業づくり、児童生徒の個別指導計画の作成・評価などに際し、「教育課程の押さえ」や学習指導要領に目を通して、教育活動に活かした。  97.0%	A	<b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領や「教育課程の押さえ」、キャリアシート、ラーニングマップ等を活用したことで、系統性を踏まえた教育活動を行うことができた。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントに対する理解が進み、担任する児童生徒の指導・授業づくりについて、担任間で話し合ったり学習環境を見直したりするプチ・カリマネが実践された。</li> <li>・学習指導要領やラーニングマップ、アセスメントチェックリストなどの根拠を手掛かりにした授業づくりに取り組む教員が増えた。</li> <li>・定期的な教科担当者会、中学部マニュアル作成作業を行ったことで、「教育課程のおさえ」を踏まえて年間指導計画の作成や見直し、授業づくりを行うことができた。</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部間の系統性</li> <li>・年間指導計画の振り返りや見直しの定期的な実施</li> <li>・的確な実態把握、発達の道すじの理解</li> </ul>
			学習指導要領や教育課程の押さえに基づき、系統性を踏まえた年間指導計画の作成、見直しができた。  92.9%		
			学習指導要領に基づいた系統性のある授業内容を検討し実施できた。  91.5%		
		学習指導要領や自立活動目標分析シート等を用いて根拠ある適切な実態把握と目標設定を行い、児童生徒の目標達成率が8割以上であった。  92.6%			
		児童生徒の発達段階を把握し、学習によって身に付けた力を評価規準／基準に沿って適切に評価することができたと感じる教員  100%	自立活動、国語・算数、国語・数学の学習において、ラーニングマップまたはアセスメントチェックリストを用いて実態把握を行い、評価規準／基準を設定して、子どもの学習状況を評価することができた。  92.9%		

様式第3号

		児童生徒がICTを活用して自ら学習に取り組むことができたと感じる 教員 100%	児童生徒が自らICTを活用して学習に取り組むことができた。 80.1%		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の力を引き出すことができるICTの機能を活かした利用方法</li> <li>BYOD（生徒が自分でパソコンを用意すること）導入の準備</li> </ul>
イ	具体的な将来像をより明確にした地域で生きる力を培う。	キャリアシートを、学年／学級経営や個別の教育支援計画の立案と評価に生かすことができた教員 100%	キャリアシート等の客観的な資料を使用して、個別の教育支援計画の目標を立てたり、評価をしたりした。 91.8%	A	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアシートの項目を基に学級目標を立てたことで日常生活の中で、生徒が意識できるように声を掛けたり、評価をし合ったりして、お互いの頑張りを認め合うことができた。</li> <li>キャリアパスポートにおいて教員の指導に工夫が見られるようになり、目標達成する姿が増えた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が自分の目標を理解したり振り返って次への意欲につなげたりできるようなパスポートへの取り組み方。</li> <li>自分で目標を立てたり、立てた目標を意識したりすることが難しい児童生徒への指導例の共有。</li> <li>表出の難しい生徒に対する目標設定の工夫。</li> </ul>
		キャリアパスポートで設定した目標を達成できた児童生徒 100%	キャリアパスポートで設定した目標を意識した実践を行い、担当する児童生徒がキャリアパスポートを振り返り目標を達成することができた。 88.4%		
		キャリアパスポートの目標に向かって児童生徒が力をつけたと感じる保護者 100%	キャリアパスポートの目標を意識した学習活動が行われ、お子さんが目標にしていたことができるようになったり、担当する教員から目標に対する達成度を聞いたりすることができた。 91.4%		
ウ	お互いが人を大切にして、笑顔に満ち溢れた学校生活を実現する。	相手を意識して自ら笑顔で挨拶ができた児童生徒、教員 100%	自分なりの方法で相手を意識して笑顔で挨拶ができるように指導し、児童生徒の行動に結び付いた。 99.2%	A	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員が率先して挨拶をしたり挨拶の仕方を伝えたりすることで自分なりの方法で教員や友達と挨拶を交わす児童が多く見られた。</li> <li>実習先などで挨拶ができると評価される生徒が増えてきた。</li> <li>全学部であいさつ運動を実施することで、笑顔で挨拶することが学校全体に定着してきた。</li> </ul>
			教員自身が相手を意識して笑顔で挨拶をすることができた。 99.2%		

		<p>重大ないじめ 0</p> <p>居心地の良い学級／学年／学部を目指して主体的に取り組んだという児童生徒 100%</p> <p>学校は楽しい、学校に行きたいなど学校が居場所になっていると答える児童生徒 100%</p>	<p>重大ないじめ 0</p> <p>望ましい人間関係ができるように指導・支援をし、いじめにつながる行動を見逃さなかった。 97.3%</p> <p>居心地の良い学級／学年／学部を目指して主体的に取り組んだ。 98.0%</p> <p>「学校は楽しい」「学校に行きたい」など、学校が居場所になっている。 95.3%</p>	<p>・相手への不適切な言動が見られた場面でその都度指導したことで、いじめを防ぐことができた。</p> <p>・年3回の人権研修や定期的な人権チェックにより教員の人権意識を高めることができ、重大ないじめ0につながった。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>・感情の表出が苦手な生徒への指導や支援方法。</p> <p>・相手の良いところを見つけたり、子どもたち達同士がお互いに相手のためと思いながら取り組んだりする活動の実施。</p>
エ	<p>明確で実地的な危機管理・安全体制を整備する。</p>	<p>危機管理マニュアルを活用し、主体的に行動できた教職員 100%</p> <p>医療的ケアを含め、ヒヤリハットの活用による重大な事故0</p>	<p>危機管理マニュアルの内容に書かれた災害時の自分の役割を理解し、児童生徒の行動を予想しながら訓練ができた。 93.8%</p> <p>緊急捜索訓練、下校時の災害想定訓練での自分の役割を理解し行動できた。 96.7%</p> <p>ハリーコール時の自分の役割がわかり、マニュアルに沿って行動できた。 99.6%</p> <p>ヒヤリハット報告や事後の振り返りを生かして、校内での安全対策や安全指導を行い、重大な事故を防いだ。 97.2%</p>	<p>A</p> <p><b>【成果】</b></p> <p>・災害時の初期動作として何をするのかが分かり、教員、児童生徒ともに素早く行動できた。</p> <p>・災害時での動きや必要な道具の確認をしてお互いに理解を深めた。</p> <p>・緊急捜索訓練、下校途中の災害想定訓練を通して、緊急時に行動することができた。</p> <p>・学年・グループ毎に事例生徒をあげて検討し訓練を行うことで、自分の役割を考え訓練することができた。</p> <p>・ヒヤリハット報告書の内容や事故防止を呼び掛ける文書を情報共有することで、教員が安全対策や安全指導を実施することができた。</p>

			<p>医療的ケアのヒヤリハット報告や事後の振り返りを生かして、校内での事故防止を意識し、重大な事故を防いだ。</p> <p>95.7%</p>		
	<p>自分の命や健康を自分で守るための取組ができた児童生徒</p> <p>100%</p>		<p>「自分の命を自分で守る」ための授業（訓練の事前事後指導を含む）を実践し、児童生徒の行動に結び付いた。</p> <p>95.7%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンのネットワーク上の掲示板、朝の打ち合わせ、毎週水曜日の医療的ケア連絡会の場で情報の共有や確認をし、共通理解して取り組めた。</li> <li>・感染症予防の呼びかけにより、手洗いやマスクの着用などができる生徒が増えた。また、避難訓練ではヘルメット着用や落ち着いた避難行動などができる生徒が増えた。</li> <li>・ポスターや掲示板を使い歯磨き指導への働き掛けを行ったことで、担当する児童生徒に合った安全な歯磨き指導ができた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マニュアルで想定している状況を超えた災害が起きた時を想定した職員の動きや役割のシミュレーション。</li> <li>・ヒヤリハットや事故報告、連絡、相談の徹底。学部全体での迅速な情報共有。</li> <li>・児童生徒による体育備品の破損を減らすための教員の見届け。</li> <li>・自転車の自損事故5件。自転車の安全な利用についての注意喚起。</li> </ul>	
			<p>マスクや手洗い（特にトイレの後、食事前）、消毒などの感染症対策の指導を行い、児童生徒が自分から感染症対策を行ったり受け入れたりする行動に結び付いた。</p> <p>98.4%</p>		
			<p>給食後の歯磨き指導再開後、周囲の安全に配慮しながら歯磨きができるように指導し、児童生徒の行動に結び付いた。</p> <p>90.4%</p>		
			<p>体育活動時に想定される怪我や事故を防ぐために、安全体制を整えて授業を行うことができた。</p> <p>87.6%</p>		
	<p>通学途上の事故0</p>		<p>想定される危険や安全な行動について指導し、通学途上の事故0につながった。</p> <p>82.1%</p>		

オ	地域等とネットワークでつながり、共生社会の実現を目指す。	地域等の「人・もの・こと」とつながる新たな取組を実現した学年／学部／分掌 100%	学部・学部として、地域の「人・もの・こと」とつながった新たな取組を実現することができた。 96.7%	A	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2回の校内、校外販売会、各作業班での販売会と清掃活動と計画的に実施することができた。</li> <li>・ホームページだけでなく、Instagramの活用によって、今までよりも教育活動について配信することができた。</li> <li>・ケヤキの会、かやのきボランティアの方々の協力を得ることで、生徒は励まされ、認められる喜びを得られ、教員も生徒の指導を充実させることができた。</li> <li>・学校間交流では、本校児童が中瀬小に手紙を届けたり、ペアで校内をスタンプラリーで回ったりと、相手を実感できる方法で交流をすることができた。</li> <li>・PTA行事に関わるポスターや掲示物等、分かりやすい形でPTA行事をアピールできた。</li> <li>・発達障害をもつ生徒や外国人生徒への対応など、高等学校の現状、支援を必要とするケースへの対応、各校の抱える課題などについて知ることができた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターによるタイムリーな情報、児童生徒の困り感や支援の状況等についての把握。</li> </ul>
			課として、地域の「人・もの・こと」とつながった新たな取組を実現することができた。 97.7%		
			ホームページやSNSを活用して教育活動を配信することができた。 85.9%		
			学校は、保護者に対し福祉施設見学の機会を提供することができた。 86.2%		
		地域ボランティア「けやきの会」との交流再開	けやきの会との教育活動に関わることができた。 83.6%		
		双方の成長を促した交流活動ができたと感じる教員、保護者、相手校 100%	交流（学校間交流、交流籍交流等）の目的や各学部の年組が分かり、双方の成長につながる交流活動ができた。 96.2%		
		保護者、教育、就労、医療、福祉機関とつながり、対応を具体化できたと感じる教員 100%	年間のPTA行事を知り、行事に関わることができた。もしくは、行事に参加する保護者と関わることができた。 89.8%		
			保護者、関係機関と連携して、産業現場等における実習の打合せや就労アセスメント、移行支援会議を実施し、具体的な対応に結び付いた。 95.0%		

			他機関との情報交換や支援会議を通して児童生徒への対応を具現化し、支援に生かした。 97.6%		
カ	業務上の役割を果たし、貢献するとともに、業務の効率化を図る。	自信と根拠を持って業務に取り組むようになったと感じる 教員 100%	COC00 で、文書の配信、アンケートの開封・回答状況の把握、行事予定の入力（学年主任のみ）、出欠状況の把握や先生メモの入力を行った。 95.0%	A	【成果】 ・ 毎日の出欠状況の確認や各種文書配信、行事予定の入力、個別面談・進路面談等のアンケート等で、COC00の活用が進んだ。特に、学年だよりの配信が進み、印刷・配付の業務削減、紙代削減につながった。 ・ 授業改善が図られたことにより、めあてや見通しを持って主体的に学んだり、操作しながら考えたりする姿を引き出すことができた。 ・ 注意喚起を定期的にすることによって、紛失や破損を防ごうと意識をする教員が増えてきた。 ・ 行事や個々の役割について定期的に話し合うことで、見通しを持って業務に取り組むことができた。
			コンサルテーションやグループ研修で学んだことを活かして授業改善することができた。 93.9%		
			防ぐことができる情報機の紛失、破損が0であった。 98.9%		
			生徒指導課が交通安全や人権教育の教材を用意したことで、業務の効率化を図ることができた。 91.0%		
			自分の担当した役割を計画的に実施することができた。 100%		
			担当係以外の仕事を協力して実施することができた。 100%		
			自分の任された役割を果たし、教育活動に貢献した。 100%		
			課内の役割分担が提示され、自分の役割を意識して業務に取り組むことができた。 100%		

		所属部署内／所属部署間が協働することで、本校で働くことができ良かったと感じる教職員 100%	児童生徒の困り感に対して、学年に相談して支援方法を考えたり、主事やコーディネーターから必要な情報を得たりして、解決策を考えることができた。 95.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1度、コーディネーター間で支援の必要な児童生徒について情報共有を行った。また、必要に応じて学部ケース会を行い、児童生徒の困り感への対応を考えることができた。</li> <li>・学部ケース会では、一人や学年だけでは思いつかない対応や児童との関わり方に気づくことができ、その後の児童への対応に生かすことができた。</li> <li>・教員が学校の資源を有効活用し、効果的・効率的に協力して授業づくりをする意識を持ったことで、学校全体の業務改善につながった。</li> <li>・防災訓練での反省を会議で共有して次の訓練に生かすことで、効率的に教員が動けるようになってきた。</li> <li>・校内ネットワーク上の文書共有に「進路のことで分からないことがあるときはここを開いて！」を作り、就労アセスメントや福祉サービスの違いを知ることができるようにした。</li> <li>・コンプライアンス研修を受けたことで、教師の役割の重要性を理解して行動することができた。</li> </ul>
			職員室、印刷室の環境や駐車場の利用方法、日番の周り方など、働きやすい環境であった。 95.5%	
			学校の資源（教材・材料・データ等）を大切に扱い、有効活用することで、効果的・効率的に学年で協力して授業作り（準備）ができた。 96.4%	
			様々な避難訓練を実施して反省することで、災害時を想定して素早く動くことができた。 99.5%	
			進路指導やキャリア教育に関する疑問を相談できる体制が整っていた。 94.8%	
不祥事0	不祥事	0		

		<p>年間時間外勤務 360時間以内 100%</p>	<p>4月～12月現在の年間の時間外勤務が270時間以内である。 83.6% (事務室 60.0%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事の優先順位やその日の業務時間を決めるなどして工夫することができる職員もいた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の教員の現状に合ったCOCOOの活用方法。</li> <li>・情報機器の返し忘れや不適切な場所での保管。</li> <li>・行事や年間計画に合わせた適切なタイミングでの教材の紹介。</li> <li>・校内の教員の専門性を生かした、児童生徒の支援に必要な情報提供。</li> <li>・半数以上の教員が目標とした週に2回以上18時に帰宅することが難しい状況。</li> </ul>
--	--	-------------------------------------	--	---